



ロータリーは機会の扉を開く

# 会報

2020 ▶ 2021  
WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ  
会長目標

60年の歴史に敬意と感謝を  
そして、これから100年に  
向けての礎を築こう!

会長/辻本 哲也 幹事/燕 美雪

## プログラム

- 本日  
「2020-2021年度 ガバナー補佐現況報告」  
RI第2510地区第一G ガバナー補佐 濫谷 賢治氏  
「我が生い立ち」 松本会員・小原会員
- 次週予定  
-法定休会-

- |        |        |
|--------|--------|
| 会員誕生日  | 結婚記念日  |
| 高橋 理佳  | 宮尾 幸之助 |
| 田中美智子  |        |
| 配偶者誕生日 |        |
| 桜元 和佐  |        |
| 中出 とみ子 |        |

No. 2870  
第5回 8月5日

出席報告

前例会

会員総数	27名
出免会員	3名
出免出席	3名
基準会員出席	24名
出席率	66.66%

前々例会

第3回 7月15日	
欠席会員	0名
内メイクアップ	0名
修正出席率	100%

例会/毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F

## 会長報告

- 7月20日交通安全旗の波運動が実施され、会員15名の皆様が参加されました。大変ご苦労様でした。
- 7月30日午後6時30分より、留萌産業会館議員クラブ室において第2回理事役員会を開催いたします。担当の会員の皆さんよろしくお祈いします。

## 幹事報告

- 羽幌RCより、活動計画書及び会報を受領しました。
- 滝川RCより、活動計画書を受領しました。なお、会報につきましては発送を取りやめ、HPにて内容を確認していただきたいと報告

が来ています。

- RI 2510地区財団奨学委員会より、財団奨学金募集ポスターが届いております。

ゲスト

北海道留萌振興局 局長 宇野 稔弘様

## ニコニコBOX

- 宇野振興局長本日はありがとうございます。  
辻本会長
- 留萌振興局長さまようこそ留萌RCへ。本日はよろしくお祈いします。  
燕幹事
- 振興局長ようこそ留萌RCへ。本日はよろしくお祈いします。  
串橋副会長
- 留萌振興局長宇野様。ようこそ留萌RCへ！  
本日の卓話よろしくお祈いします。  
関野例会運営委員長

## 第4回 7月29日(水) 天候/晴

- 先週の夜間例会多数の参加ありがとうございました。  
西谷親睦活動委員長
- 新聞に出ました。  
武田会員
- 夏の暑さが厳しくなってきました。コロナに注意しながら熱中症にも注意しましょう。  
松本会員
- 知床の大自然パワーをもらってパワーアップをしてきました。よろしくお祈りします。  
青山会員

前 回	185,000円
今 回	9,000円
累 計	194,000円



### プログラム・・・・・・・・

#### 「来賓卓話」

留萌振興局長 宇野 稔弘 様

4月28日に留萌振興局長を拝命いたしまして、やっと3ヶ月経過した所でございましたが、関野さんと菅さんがやってきて、ぜひ一言お話をさせていただきたいとの事で、私も何を話して良いものやら、色々昔の局長が話したことを調べました。平成23年8月に竹谷振興局長が観光振興の話をされておりました。彼女は現在、北大の監事という事で監査役として頑張っております。観光に勤めておりましたので、観光の話をしたのだと思いますが、その次の平成26年の岡崎振興局長は人口減少という事を話されておりました。2人とも大きなテーマからお話をされておりました。その後少し間が空いて、私が今回ご指名を受ける事になりました。大変フレンドリーなロータリークラブの中でお時間をいただいた事を大変光栄に思っております。

私も留萌は何回か来たことがあります。住むのは初めてでございまして、3月28日に高規格道路が全面開通した後に留萌にやって参りました。トンネルを抜けるとパッと街が広がって、こんなにインターに近い街は無いなと感じました。実は私は数年前に美唄市で部長職をしておりまして、2年間美唄に住んでいました。留萌と美唄市を比べますと、住民基本台帳では

人口は200人位しか変わらない街でした。しかし留萌市の印象は、美唄市に比べて3倍から4倍位交流人口があるような感じがいたしました。お互いにそれなりに自衛隊があったりと、農業基盤や土建屋さん等を含めて色々な産業がありますが、やっぱり留萌と言うのは、まさに今は夏だから余計にそう思うのかもしれませんが、道内各地から留萌を訪れに来ている土地だなど思いました。

それで本日は何を話すかと言いますと、先ほどコロナやオリンピックなどの話も出ていましたが、コロナのお話は既に色々な所で話をされておりますので、コロナの話ではなくて、身の上話でもOKと言われておりますので、私の身の上話を交えまして、私の話を聞いていただきたいと思います。その前にコロナに関して少し話しますと、昨日実は留萌市役所の幹部の皆様と留萌振興局の幹部が毎年1回懇談を持っておりまして、その中で留萌市立病院の院長さんが毎日のようにPCR検査を出していると言われておりました。何故かと言いますと、家で転んで骨折をした高齢者が運ばれてきます。手術の前に検査をすると必ず肺に影があり、高齢者の肺炎の罹患率が高いという事で、院内感染を起こさないために、毎日PCR検査に出しているそうです。これからは留萌市と連携して皆様にコロナから守れるようにしっかりと対応していきたいと思います。話に入る前にもう一点の報告なのですが、8月8日の午後5時から“あぐり王国”というテレビ番組でオンエアされますが、地元のルルロソの収穫作業とフタバ製麺さんの製麺作業と、料理部門で司さんで出されているメニューをピックアップしながら、留萌地域の宣伝をする事になっておりますので、皆様もぜひご覧いただければと思っております。

私の生まれは道北の滝上町という所で、ちょうど留萌の反対側にある紋別という街から内陸に35キロ入った林業の街で生まれました。私の生まれた家では、祖父が屋根から落ちて今の私の年齢位から21年間寝たきりになりまして、手の上からしか動かない状態で生活を送っておりました。両親は当然共稼ぎで、祖母も当然祖父

の介護で付き添っていましたので、どちらかと言うと私はほったらかしの状態で、一人で遊んでいる事が多い子供でした。家には常に祖父が居て障害者が家にはいるもんだと言う事で、障害者にかける思いはかわいそうと言うよりもどうしたら便利になるかなと言う事を考えている幼少期でした。

高校に入り紋別市に汽車で通学しておりましたが、紋別も留萌と人口が2000人位しか変わらない街でしたが、景気の悪化で遠洋漁業も無くなってしまいました。ただ、加工場がしっかりしていた部分があり、流水がありますのでガリンコ号の集客に力を注いで、いわゆるインバウンドに力を注いでおりましたが、列車も廃線になり駅前が一時廃れまして、人の交流もグッと落ちました。私自身高校生だったのですが、この街は大丈夫なのかと廃線になった数年後でしたが高校卒業後に思いました。それでは今はどうかと言いますと、先ほど高速道路の話をしてきましたが、札幌から4時間位、滝上町には3時間ちょっとで着くようになりました。昔、滝上町から札幌まで電車で行くとなると朝5時40分の汽車に乗って昼12時15分位の到着でした。JRを乗り継いで6時間半掛かっていたものが、高速道路が出来て劇的に交通体系が変わって来たんだと感じました。特に昨日市長さんとも話したのですが、留萌市さんの道の駅のオープン効果と言うものは、施設はこれから色々成長されていくのだと思うのですが、やはり道の駅の開業効果と言うものは大きくて、全道からマニアの方がいっぱいいらっちゃって、ただ道の駅も色々な意味でランキングされたり、スタンプラリーされたりとか、他の方々の目に入ると、継続的に留萌の人気を保っていくにはそういったユーザーの声を取り込んでいくかという大事な問題になっていくんだなと思っております。

その後、高校を卒業後は当然大学進学を目指すのですが、一応北大進学を目指していたのですが、案の定落ちて一浪しようか大学を諦めようか考えていたのですが、結局北海学園大学へ進学し、4年間過した後に民間企業に就職をいたしました。民間企業では営業が主でして、



自分で言うのも何ですが、営業の成績はそんなに悪くはなかったです。しかし休みというもの全然なくて、ある時身体を壊しまして上司から普通は「大丈夫か？」と言われるのが当たり前と思っておりましたが、「明後日には会社に出てこれるか」という質問に、こんな会社でこれからもやっていけるのかと言う気持ちになり、結局この会社を辞める事にしました。当時はトラバユコといって転職ブームだったものですから何とかかなと思っていたのですが、何社か受けてみて、「貴方はなぜ前の会社を1年ちょっとで辞めたのですか？」「貴方は私の会社に入って何をしますのですか、経験はあるのですか？」と、非常に未熟な人間に対しての社会による厳しい目を改めて実感しまして、その時はまだ公務員という選択肢は無く、回りに公務員の方はおりません、ハローワークへ行った時、私と同じような歳の人に「貴方は働く気はあるのですか？」と言われて、腹が立ちまして、「働く気があるからここに来ているのだろう」と言うのと、なぜこんなことを聞くかと言うと、ここは労働意欲が無いとお金を出せない所で、残念ながらこの方はあまり親身になってくれませんでした。私自身この人たちを見返してやりたいと言う気持ちになりまして、まだ公務員になろうとは思っていませんが、何か資格を手付けようと勉強し始め、科目が同じだった道庁の試験に通じ、道職員人生の始まりがここにありました。初めは網走振興局に勤めまして、市町村財政とか広く多くを学ばせていただきました。市町村財政を担当していた頃には、市長、町長、助役さんなど色々な方と気軽にお話する機会が

## 第4回 7月29日(水) 天候/晴

---

ありました。しかし今の若者にはそのような機会があまり無く、市長・助役どころか担当の課長さんともあまり話す事が出来ず、課長さんとコミュニケーションも取れない事が多くなっています。振興局でもジェネレーションギャップと言うか、現在25~27歳位の職員が圧倒的に多くて、我々50代の職員がある程度おりまして、そのギャップを埋める人達が全くおりませんので、技術の伝承をどうしていくかが重要な問題になっています。現在、よくJR問題と言われておりますが、現在40代の人達がJRには全然おりませんで、あのような大きな装置産業で、交通体系を持っている所は技術伝承がないと次の路線を守れないと言われております。北電さんもそうだと聞いています。若い人が入って来てくれない。バス会社にしても20代の新入社員が入ってこないと言います。統計上では10年後にはバスの運転手さんは半分になってしまう事になります。とにかく若い人が入ってこない。若い人をどうやって取り込んでいくかが今後の大事なポイントになると思います。一義的には給料を上げれば良いのではと考えますが、簡単には出来ない事ですので。また、よく自動運転が話題になりますが、東大の名誉教授の鎌田さんと言う自動運転の第一人者の方がおりまして、その方の話では、トヨタの宣伝で“自動運転がすぐそこまで来ている、5年後にはバラ色の自動運転が始まる”というイメージでコマースルをやっていますが、北海道ではあと15年は無理だろうと言われております。安全安心に目的地まで皆さんを運ぶための端境期をどうやって乗り越えていくのかが非常に大事な問題だと言われておりました。今現在、コロナの関係で高速バスも間引き運転されていますが、非常に厳しい中で事業者さんが頑張っているのも何とか観光に結び付けたいのですが、国もG O t oキャンペーンなどをしていますが、なかなか政府の政策とマッチングしていないのが皆様ご存知の通りでございます。実は私が一番長かったのが観光かもしれません。一時期出向でプリンスホテルに行ったのですが、その時はベルボーイをずっとやっておりました。最初の頃はなぜ道職員

が、3か月も4か月もベルボーイをしなければならぬのかと思っておりましたが、「ホテルは施設の顔である。その一番最初に出会うのがベルボーイの貴方だから頑張ってもらいたい」と当時釧路プリンスホテル開業立ち上げに携わりまして、ホテルの宣伝に駆り出されたのが沢口靖子さんでした。非常にきれいな方が宣伝しているなど今でも思い出されます。その他に国土交通省にも出向になり、皆さんビジットジャパンキャンペーンというものをご存知でしょうか、要は海外からたくさんお客さんを取り込もうという催しをやりました。小泉首相が当時の観光客を1000万人にするということで宣言したもので、当時日本には450万人しか海外から観光客が来ていなくて、役人の方は700万人だと言ったのですが、小泉首相は1000万人だと引継ぎ返して行って、1000万人呼ぶという事でビジットジャパンキャンペーンが始まりました。日韓ワールドカップが始まって、何か波に乗っていくような状態でした。その時にSARS問題が起きまして、波に一番乗りかけた時に落とされて、SARSの病状というものがすぐわかったものですから、ある程度の時間で収まったのですが、ただインバウンドという大きな流れはこれからも続いていくと思いますので、ここ留萌にもせつかく要となる高速道路が出来たという事で、ぜひ終息されたら更に交流人口が多くなるように、取り組みをドンドン進めていきたいなと思っております。

少し端折りますが、私が美唄にいたという事で住んで気が付いたのですが、美唄という街は人口10万人からキューと2万人に減ってしまい、とにかく古い社会資本が溢れ返っておりました。上下水道、市民会館、ダムも2つ持っていましたし、消防は単独でやっているだろうし、市立病院も立て替えたいし、お金がいくらあっても足りない。それ位疲弊している状況でした。その中で街づくりをどうしたら良いのかという事で、美唄工業高校をつぶしてもらって、そこにコンパクトシティを作ろうという事で道教委にお願いしたのですが、その建物を壊すのに3億円も掛かってしまって、当初そこには公営住宅



を建てる予定でしたが話は保留になっております。留萌市も留萌高校が空いていて、何か利用できないかという事でこの間見せさせていただいたのですが、高校というのはかなり大きな建物になっていて、とにかく暖房一つとってもランニングコストがかかる事と、現在使われていない事から壁や天井のクラックとか修繕費用が掛かる事と、後は違う目的に使う時に消防法上の色々な規定があって逆に高がついてしまう事があります。それでは成功例が無かったのかと申しますと、実は一つあって、小さな小学校があり、その体育館に北海道霊芝という鹿の角のような漢方薬を作る工場を誘致しまして、それが非常に人気が出ていて、中国産より出来が良いという事で体育館に培養施設を作り、中にオフィスを作り、地域の皆さんと仲良くやっている成功事例もあります。一概に校舎は全てダメだとは言いません。高校の跡地利用が小学校の跡地利用に比べて違うかなと言う印象を受けます。

そろそろ時間も無くなってくるので、留萌について話しますが、留萌の活力を維持していくにはやはりこれから人口減少が続く中で、どうやって人口を維持していくか。留萌は現在4万人で、毎年管内全部で1000人がいなくなっていて、この人口統計というのは、国立人口問題衛生研究所という所でやっているのですが、色々な条件によって減り方が変わり、悲しいかなこの人口推計はかなりの確率で当たるとされています。何もしなければこうなりますよ、という数字が出ていて、その中でどのように留萌地域を残していくのか、本当に真剣に考えなければならぬ所に来ていて、それは皆さん十分ご存知だと思いますが、外から人を呼んだり、若い人に定着してもらったり、色々な政策を組み合わせていく事が重要なのですが、実は留萌管内全市町村で光ファイバーの整備網という物をやっております。それで何をやるかと申しますと、当然ネット環境を整備すると何か便利になるんだろうという事で、今日も実は町村長と勉強会がありまして、海の中でナマコの密漁などがありますが、今は海中にソナーを置いて、密漁者のあ

ぶくを検知してその密漁を取り締まるという事が出来ていたり、牛の個体管理として牛全てにタグを付けて、どのような牛がどのように動き、どのようなエサをどれ位食べたかを管理できるようになっています。いわゆるスマート農業のようなもので、これからは小学校の方々に高等教育を受けてもらうために遠隔の授業という物が今後でてくるのかなと。デジタルの世界で自分たちの生活を守っていけるのかという事もあるのですが、高齢者の方が増える中では一時的にそういう物で一次産業の方をしっかりと守っていくという事が非常に大事なのかなと思います。

今、菅官房長官がワーケーションと声高らかに言っていますが、ワーケーションというのは一義的には首都圏の企業さんがリゾートに行ってお金を落としてください、という事なのです。そう言う意味で、ワーケーションと菅官房長官が言っていますが、私は留萌地域には当てはまらないと思っております。彼の目的は今の観光地を大企業のテレワークで救おうとしている事で、私が思っている留萌地域のワーケーションとは、出来れば企業さんとか大学と連携するツールとして使いたい。つまり、その前に各町村長さんに“ワーケーションって興味ありますか”と担当部長に回ってもらったのですがゼロでした。私の所には施設がないからこんなことは出来ない。せいぜい20室しかないからと言われましたが、実は20室も必要が無いのです。例えば10人のグループが1週間~2週間いてくれるのであれば3部屋あれば十分で、その中で留萌の一番良い時期を質の良い企業の方々に来てもらって、例えばサイクリングとか、釣りですとか食ですとか、留萌の魅力を味わってもらって留萌のファンになってもらう、そういう意味でのワーケーションをしたいと思っております。何故このような事を言うかと申しますと、美唄市の経験から、企業さんが来てくれると次の企業さんと呼んでくれる。大学と付き合うと大学生が来てくれて、更に企業も来てくれたりと、思いも掛けない効果が実は生まれるのです。北海道霊芝さんもそうでしたが、サイクリングのジャイアントという企業を皆さんご存知でしょ

## 第4回 7月29日(水) 天候/晴

うか。台湾でナンバーワンの企業ですが、美唄のアルトピアアという綺麗な公園があり、そこを気に入って空知グルメフォンドという、要は自転車でおいしい物を食べて回るという事を企画して、毎年何百人も参加しているそうです。これはわざわざ参加料を払って参加しに来ます。当然周りにも泊っていただけますし、地元を食べるという事で新しくサイクルツーリズムとして定着し、何故か事務局を岩見沢市に奪われてしまいました。しかしこれはワーケーションによってすぐ始まる訳でもありませんが、長い取り組みが非常に効果を得ていると言えます。天塩町の夕映え荘さんも毎年のように筑波大学の学生さんに来ていただいたり、すぐに役に立たなくても、その人達の人脈が必ず役に立つ事があります。美唄市の雪冷房という物がありまして、雪の活用という事で自然に乾燥させていくので米が劣化しないという取り組みもしていましたし、スマート農業の先進地にしたいという事で、あまり大きな声で言えませんがデンソーさんが技術開発の研究をしているところです。私としてはこのワーケーションとは難しい言い方なのですが、簡単に言うと企業さんとか学校さんとどういった繋がりを持って行くかという事で、特に旭川市と札幌市がこれだけ近くてこんなにアクセスの良い所で、ワーケーションで来る人は一番良い時期に来るのかも知れません。やはり一番良い時期に来てもらってファンに

なってもらうのが手っ取り早い方法と言えます。

このように私どもは提案を少しずつでもしていこうかなと考えております。移住、定住とか地域づくり応援隊など、行政も一生懸命やっけてはいるのですが、やはり自分が思ってきた事とギャップがあって、なかなか定着に結び付いていないと言う事があるものですから、ぜひ大学などと結びついて、たまたま美唄の時は札幌国際大学や札幌大谷大学、札幌大学など多くの大学と包括連携協定を結びまして、実際に大谷大学の方が保育所に就職して下さいましたし、そのようなつながりも生まれてきたという事もありまして、何とかそのような取り組みを増やしていきたいと思っております。やはり地域特性を活かしていく事が今後の産業の育成にとって非常に大事だと思っておりますので、我々振興局がやれることは限られているかもしれませんが、昨日も留萌の市長さんと話し合いを持ちましたが、非常に大きな夢を持っておられまして、留萌の道の駅、港オアシス構想で、留萌の道の駅を核として留萌の振興をしていきたいと考えているようで、古くなった公共施設の再配置とか、皆さんがあまり車に乗らなくても生活できるような、歩いて暮らせる街づくりなども推進していかなければならないと、留萌は今一番良い時期に来たのかと。良い時期というより節目の時期に来たのかなと私自身思っております。

(次回に続く)

### 旗の波運動 7月20日(月) 四十坊前



### 《奉仕プロジェクト委員会》

